

国語 第4学年 言葉について考えよう

検討会の想定問答

指摘 1：この単元で身に付けることは何か。

返し：主語と述語、修飾語と修飾される語、指示語が示す内容を確認、意図した意味に伝わる文章へ直す。何となく変だと感じて直すのではなく、語句どうしの関係を説明する。B(1)エの学習として、文の点検シート。元の文、語句の関係、誤解される意味、直した文、直した理由を記す。

指摘 2：何をもって学習できたと判断するか。

返し：おおむね満足できる状況は、相手や目的を意識し、語句の関係を確かめて意図した意味に伝わるよう文章を直しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。B(1)エの姿を本時の発言と記録に照らす。

指摘 3：活動が楽しいだけで終わらないか。

返し：文の点検シートを残す。元の文、語句の関係、誤解される意味、直した文、直した理由を記す。活動後に、どの言葉を根拠にしたかを確認することで、B(1)エに関わる学習の中身を確認する。

指摘 4：難しさのある児童にはどんな支援をするか。

返し：短文では正しても文章の中で主語が変わると見落とす。指示語を全て消すことが改善だと思う。これについて、教師作成の文で主語と述語を線で結び、修飾する関係は矢印にする。指示語を実際の語に置き換えて意味を確認する。その後は児童自身の文章で同じ方法を使い、必要な箇所だけ直す。〔知識及び技能〕(1)カとB(1)エを切り離さず扱う。

指摘 5：考えが違ったときはどう扱うか。

返し：教師の結論を選ばせず、「この言葉は、どの言葉と関係していますか。読み手が別の意味に受け取らないように、どこを直しますか」に戻す。言葉や本文で確かめられる点と、個人の感じ方を分け、B(1)エに関わる根拠を話し合う。

指摘 6：本時の評価で態度まで決められるか。

返し：本時の参加の様子だけでは決めない。学年の目標(3)を受け、単元を通した記録と見直しの理由を合わせて判断する。発言の多さや従順さを態度の評価にしない。

指摘 7：端末がない学級でもできるか。

返し：文の点検シートは紙に記録できる。元の文、語句の関係、誤解される意味、直した文、直した理由を記す。端末があれば書き直し前後を保存して比較する。道具の操作をB(1)エの評価の代わりにしない。

指摘 8：時間が足りないとき、どこを残すか。

返し：総時数の出典は光村図書出版の年間指導計画である。活動量を調整する場合も、本時の問いを自分で考える場面と、根拠を比べて記録を見直す場面は残す。B(1)エで目指す姿が確認できるように配当を組み直す。

指摘 9：文法用語の正答を評価するのか。

返し：〔知識及び技能〕(1)カを、実際の文を説明したり直したりする場面で見ると。用語を答えられても意図した文に直せない場合は、具体例に戻る。

指摘 10：振り返りを感想だけにしないためには。

返し：「この言葉は、どの言葉と関係していますか。読み手が別の意味に受け取らないように、どこを直しますか」への答えを学習前後で読み比べる。変えた点に加え、理由を確かめて残した点も書く。B(1)エに関わる言葉の捉え方・使い方を記録する。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

